

2023 年 1 月 31 日

2022 年度聖路加国際大学大学院看護学研究科 課題研究

高齢者・家族の今後の暮らし方に関する意思決定をめぐる
倫理的課題と看護実践
～入院施設での実習の振り返り～

Ethical Issues and Nursing Practice Regarding Decision-
Making about Future Living Arrangements of Elderly People
and Their Families

～Reflection on practical training in an inpatient facility～

21MN001

秋吉 美代子

要旨

「目的」本課題研究の目的は、筆者の実習における自己の看護実践を分析することで、高齢患者・家族の意思決定に関する倫理的課題に対する看護実践を考察することである。

「研究方法」筆者の実習における事例に対しての筆者の看護実践を、鶴若（2022）の『鶴若が一部追記した Johnstone の倫理的意思決定モデル』を参考にして、著者が抽出した整理項目を用いて振り返りを行い、高齢患者・家族の意思決定に関する倫理的課題における看護実践を考察した。

「結果」分析の対象になった事例は、患者が意思表示できるにもかかわらず、患者に相談もなしに患者が居ない場で、家族と医療・介護チームにより患者の療養生活についての話し合いが行われ、家族が意思決定している倫理的課題が生じている事例であった。この事例における看護実践を振り返ったことで、倫理的課題の構図と長男のジレンマの構図が明らかになり、筆者の看護実践で大事にしていることと、その優先度について自覚することができた。一方で、筆者の看護実践の課題も明確になった。そして、倫理的課題を捉えることが遅かったことから、筆者を含むチーム全体の倫理的感受性が低い可能性があることを推測した。

「結論」振り返りから明確にしたことや推測したことから、高齢患者・家族の意思決定に関する倫理的課題における看護実践を考察した。その結果、高齢患者・家族の意思決定に関する倫理的課題における看護実践には、【意思決定するための時間のコーディネートを意識すること】、【患者・家族と信頼関係を形成すること】、【臨床でおきている出来事や自身の看護実践に対して批判的・内省的に問うこと】、【看護チームの相互行為を円滑に行うこと】、【早期から患者に関係する人と環境の調整を実施すること】、【継続的な看護倫理教育を企画・実施すること】、【目の前で起きている出来事や現象に対して常に客観的な視点を持てるよう、自分自身で自分を律すること】が必要である可能性が示された。

倫理的課題は一人ひとりの価値観が違うため、今後も生じ続けていく。だからこそ、今後は目の前に生じている倫理的課題に対して、在宅看護専門看護師を目指す者として、本課題研究で示された倫理的課題における看護実践を行い、患者の自立と尊厳を守り、患者が病院から暮らしの場に安心して移行できるよう、常に謙虚さと真摯な態度を忘れずに貢献していきたい。